



いじめ NO!

校長 神田 朋恵



5月25日土曜日、無事に、50周年記念大運動会を執り行うことができました。早朝より、多くの皆様に御参加いただきまして、誠にありがとうございました。

今年度は大きく2つの変更点がありました。前後半の間に、全校で集まり競技する時間帯を設けたことと、4色対抗だったものを赤白2色対抗にしたことです。全校では応援合戦と大玉送りを行いました。応援の声はこれまでの倍になり、迫力が増しました。大玉送りでは、閉会式で児童の言葉にもありましたが、1～6年生が協力して心一つにすることが、目に見えて伝わってきました。

皆様にアンケートをとらせていただき、来年度の参考にさせていただきたいと考えております。ぜひ忌憚のない御意見・御感想をお寄せください。

さて、6月に入りました。学校では、6月、11月、2月は鬼門と捉えている時期です。なぜなら、学級学年にも慣れてきて、目標を見失う時期だからです。

今月の生活目標は「友達となかよく過ごそう」ですが、本校では「人権月間」でもあり、市内一斉「いじめ撲滅強化月間」にもあたります。明日の講話朝会で、次のような話をする予定です。



「いじめ」と「人間の脳」は深い関係があります。人間の脳は内側から「脳幹」「大脳辺縁系」「大脳新皮質」の3つの部分からできています。「脳幹」は息を吸ったり、物を食べたり、排泄をしたり、眠ったりするために使われ、生きていくために必要な『命を支える脳』です。爬虫類にはこの脳しかないのが「ヘビの脳」とも呼ばれます。その周りにある「大脳辺縁系」には、喜んだり、怒ったり、悲しんだりする『感情を支える脳』があります。哺乳類までが持っているのが「ネコの脳」とも呼ばれます。一番外側にあるのが「大脳新皮質」で、考えたり、覚えたり、言葉の話したり、勉強したりするのに使われる『知恵を支える脳』があります。人間だけが持っているのが、「ヒトの脳」とも呼ばれます。

人はいじめられると、この3つの脳のうち、ある部分が弱ってきます。どこだと思いませんか。

それは、「ヘビの脳」です。人はいじめられると、眠れなくなったり、食事をしなくなったりして、生きる力がなくなっていくのです。

では、いじめる側はどうなのでしょう。人は悪口を言ったり、他人を攻撃すると、脳の中に「ノルアドレナリン」という物質が少しずつ出るそうです。これは、毒蛇の次に強い毒とも言われ、老化を早くしたり、病気になりやすくなったりするなどの影響を及ぼします。反対に、他人に親切にしたり、優しい言葉をかけたりすると、「エンドルフィン」という物質が出ます。これは痛みを和らげたり、病気を治したりする作用があり、元気で健康的な生活をもたらします。どんなに隠しても、体は正直で、全て自分に返ってくるのです。

いじめた人や悪口を言う人は「ふざけていた」「いじめてるつもりはなかった」と言います。自分がいじていることに気付かない場合もあります。でも、いじめられた人は生きる力を弱め、時には命も奪われます。

学校は、いじめの見逃しを0にすべく、教職員一丸となって子どもたちを見守って参ります。地域の方を含め「いじめ防止対策委員会」も開催します。今月も御支援・御協力の程、お願いいたします。